

警戒種

カロライナツユクサ

-大豆畑への侵入が危惧される雑草-

同定のカギ

- ・在来のツユクサに葉の形が似ている
- ・3枚の花びらがすべて淡い水色

カロライナツユクサ

Ver.2

お問い合わせ

国立大学法人宮崎大学
農学部附属フィールドセンター
松尾光弘
〒889-2192
宮崎県宮崎市学園木花台西1-1
0985-58-7579
mmatsuo@cc.miyazaki-u.ac.jp

大分県農林水産研究指導センター 水田農業グループ
〒872-0103
大分県宇佐市大字北宇佐65
0978-37-1160

(国研)農研機構
kusa-daizu@naro.affrc.go.jp



左:カロライナツユクサ、右:ツユクサ

形態・特徴

ツユクサ科ツユクサ属の一年生で、インド～バングラデシュ原産の帰化植物。

日本では2006年頃より西日本で発生が確認されている。

幼植物はツユクサと形態が似ているが、花卉の大きさと色が違い、ツユクサに比べて花卉は小さく、また色も淡いため、開花期以降の判別は容易である。

発生生態

気温20℃以上で発芽し、適温は30℃である。

出芽は、九州の場合に5～9月まで長期にわたるが、7月に大豆を播種した場合、出芽のピークは8月中旬までのため、その間防除を徹底する。

また、10cm程度の土壌深度からも出芽するため、播種後土壌処理除草剤の効果は低い(但し、除草剤成分としてはアラクロールが有効)。

開花は短日で促進され、9月上旬から開花・結実して、開花後3～4週目には種子が形成されて落下する。当年内での発生は見られない。

雑草害

主に北部九州の畑作(大豆)圃場あるいは畦畔でまん延している。

大豆畑では圃場内でのまん延により収穫不能となるケースもある。

1個体が圃場に侵入すると、生育した個体に作られる種子は5,000～15,000粒であり、そのうちの約20%が翌年に発生する。



左:カロライナツユクサ、右:ツユクサ



仏炎苞内に形成された種子



収穫前の大豆圃場にまん延したカロライナツユクサ



畦畔に繁茂するカロライナツユクサ

防除のポイント

トラクターやコンバイン等の機械作業、あるいは水系で種子が移動し拡散している可能性が高い。水田輪作地帯では地域全体に急速に拡散することが懸念されるため、少数でも見つけたらすぐに防除する。

他のツユクサ類と同様に、茎の節から根を出す性質があるため、抜き取った個体を畦畔などに放置しておくとも節から発根して活着する。畦畔でも、草刈り機で刈り取った個体の茎から発根して活着するため、**除草剤での防除が最も有効**である。

Commelina caroliniana Walter

防除技術

アタックショット乳剤と大豆バサグラン液剤の生育期茎葉処理と中耕培土の体系防除が基本

播種後から8月中旬まで防除を続ける

表1のように播種後、カロライナツユクサが3葉期に到達する度に生育期茎葉処理除草剤で防除し、2剤の間に中耕培土(除草&倒伏防止のため)を実施する。

条間30cmの狭畦密植栽培による防除の省力化

7月下旬に狭畦密植栽培を行い、早期に条間を被覆することで、表2のように中耕培土を省略できる。但し、大豆が倒伏した場合は残草量が増加する傾向があるので注意する。

侵入初期での防除が重要

侵入初期では多くの場合、圃場の中でも畦畔や畦畔沿い、または圃場の極一部で発生がみられる。大豆の栽培期間中、畦畔や圃場内を観察し、侵入初期に防除することが、最も低コストかつ省力的である。

除草剤情報

※除草剤の使用にあたっては、ラベルをよく読み、よく理解した上で使用方法を遵守してください。

使用場所	除草剤	薬量	処理方法・時期
大豆圃場内	アタックショット乳剤	50ml/10a	大豆の2葉期～開花前、収穫45日前まで (ただし、カロライナツユクサ3葉期まで)
	大豆バサグラン液剤	150ml/10a	大豆の2葉期～開花前、収穫45日前まで (ただし、カロライナツユクサ3葉期まで)
	プリグロックスL	1,000ml/10a	畦間処理、収穫3日前まで (雑草の生育期～草丈30cm以下まで)
水田畦畔	プリグロックスL	1,000ml/10a	雑草生育期

※本パンフレットは、農林水産省委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発」の成果に基づいて作成されました。

表1 体系防除の例(九州における条間75cm・7月中旬播種)

時期 (目安)	処理タイミング		防除
	大豆	カロライナツユクサ	
7月中旬	播種		播種後土壌処理除草剤 (アラクロールを含む剤を使用)
7月末～8月始	2葉期以降	3葉期	アタックショット乳剤 50ml/10a
	3～4葉期		中耕培土
8月中旬	開花前まで	後発3葉期	大豆バサグラン液剤 150ml/10a



図 生育期除草剤と中耕培土の体系処理の防除効果

表2 体系防除の例(九州における条間30cm・7月下旬播種)

時期 (目安)	処理タイミング		防除
	大豆	カロライナツユクサ	
7月下旬	播種		播種後土壌処理除草剤 (アラクロールを含む剤を使用)
8月上旬	2葉期以降	3葉期	アタックショット乳剤 50ml/10a
	開花前まで	後発3葉期	大豆バサグラン液剤 150ml/10a

まん延を防止するために

カロライナツユクサ